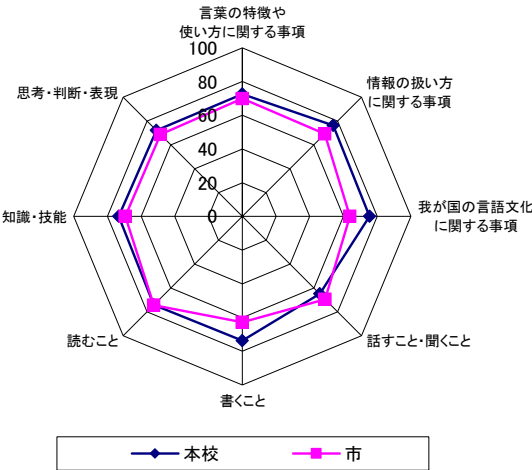


宇都宮市立岡本北小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	72.6	69.9	72.3
	情報の扱い方に関する事項	76.3	69.2	73.0
	我が国の言語文化に関する事項	75.4	63.8	66.0
	話すこと・聞くこと	64.9	69.5	71.5
	書くこと	73.7	62.8	67.1
	読むこと	74.3	74.4	73.7
観点別	知識・技能	73.3	69.4	71.9
	思考・判断・表現	72.2	68.8	70.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

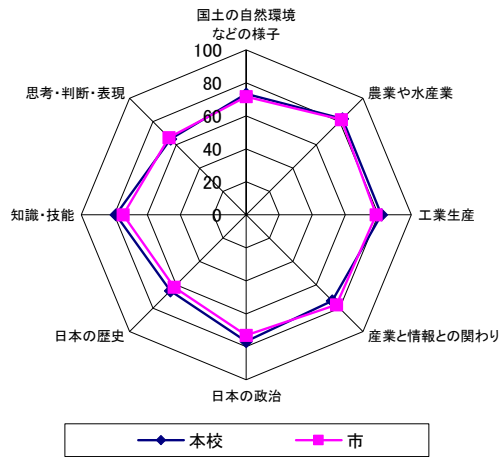
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や 使い方に関する事項	平均正答率は市の平均より高い。 ○三字の熟語の成り立ちについての理解は、良好である。 ○段落の役割についての理解は良好である。 ●敬語の謙譲語についての理解に課題が見られる。 ●文と文との接続の関係の理解に課題が見られる。 ●5学年の漢字の書きや6学年の漢字の読みについては、課題が見られる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・漢字の学習については、単純な反復練習に終始することなく、「漢字を使うと自分の考えが正しく伝わる」「漢字が使われていると意味が分かりやすい」などの実感がもてるような場の設定を工夫する。 ・日頃の授業の中で、意図的に接続後を使う学習活動を行う。 ・敬語の謙譲語は小学生にとって難しい内容であるが、日常生活と関連させた学習活動を行い、理解できるようにする。
情報の扱い方 に関する事項	平均正答率は市の平均より高い。 ○情報と情報の関係の理解し、文章の情報を整理することについては、良好である。	・引き続き、文章の情報を整理する学習活動を計画的に行う。
我が国の言語文化 に関する事項	平均正答率は市の平均より高い。 ○語句の由来について関心をもち、和語・漢語・外来語についての理解が良好である。	・語句の由来や和語・漢語・外来語などの学習内容を継続的に行うようにする。
話すこと・聞くこと	平均正答率は市の平均より低い。 ○自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えることは、良好である。 ●話の内容を捉えたり、意図に応じて質問を工夫したりすることに、課題が見られる。	・「誰に何を伝えたいのか」「何のために話し合うのか」など目的を明確にした言語活動を行う。 ・話を聞く際に、要点を落とさずにメモを取りながら聞く習慣を身に付ける。友達の見解との共通点や相違点に気を付けながら聞いて、話の内容を正確に捉えるようにする。
書くこと	平均正答率は市の平均より高い。 ○情報と情報の関係について理解し、目的に応じて文章を簡単に書くことは良好である。 ○指定された長さで文章を書いたり、自分の意見とその理由を明確に書いたりするは、良好である。	・引き続き、指定された長さで文章を書いたり、自分の意見とその理由を明確に書いたりする学習活動を意図的に設定するようにする。
読むこと	●叙述を基に文章の内容を捉えることについては、課題が見られる。	・単元のねらいを明確にして学習を進める。 ・説明文では、話題と結論を意識し、指示語の示す内容や段落のつながりを捉えたりさせることで、学習内容を理解することができるようになる。

宇都宮市立岡本北小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	73.3	71.6	67.5
	農業や水産業	82.5	81.5	82.1
	工業生産	81.9	78.7	70.8
	産業と情報との関わり	73.7	77.2	68.2
	日本の政治	76.8	73.1	77.9
	日本の歴史	65.1	62.0	65.8
観点別	知識・技能	79.1	74.6	74.5
	思考・判断・表現	64.9	66.2	65.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

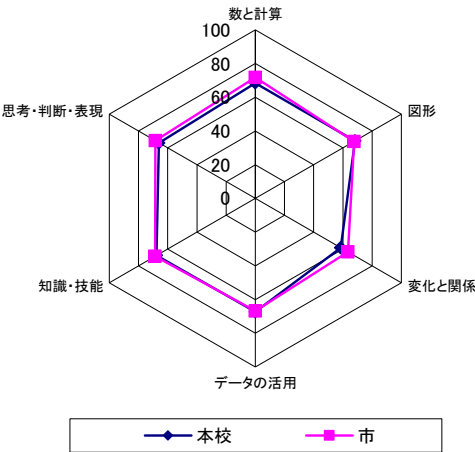
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境 などの様子	平均正答率は73.3%であり、市の平均より1.7ポイント上回った。 ○日本周辺における海洋名についての正答率は84%であり、国土との位置関係や名称の理解は定着している。 ●日本の主な地形の名称と位置について地図を基にして読み取る設問では、市の平均を超えているものの、正答率は45.6%であった。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・都道府県の地形については、視覚的に捉えられるように地図帳や地球儀、衛生写真などを学習内容に応じて活用する。 ・人々は、自然環境に適応して生活していることを手掛かりとし、大きな川や平地、山地の涼しさなど、その地の特色と関連付けた授業や課題解決に向けた調べ学習を展開する。
農業や水産業	平均正答率は、市の平均と同等な結果(82.5%)であった。 ○「地産地消の意味(93%)」や「カントリーエレベーターの役割(84%)」についての設問は、市の平均を大きく上回り、理解の定着がうかがえた。 ●農産物の産地を都道府県の地図から選択する設問の正答率は70.2%であり、市の平均を下回った。米の生産量が上位となる都道府県についての理解に課題が見られた。	・食糧生産の概要については、「どこで生産されているか」や「生産量はどのように変化しているか」、「外国とどのような関わりがあるか」といった問いを設けて、食料生産と国民生活を関連付けながら調査する時間を位置付ける。 ・調査した内容は、資料を基にししながら情報を整理し、リーフレットとしてまとめたり、考えたことを発表したりすることで理解の定着へとつなげる。
工業生産	平均正答率は、81.9%であり、市の平均を上回った。 ○自動車工場での作業工程に関する設問では96.5%の正答率であり、市の平均を上回った。 ●自動車を移動する際の「キャリアカー」と「船」の工夫捉える設問の正答率は、63.2%であった。一度に多くの自動車を運ぶことができる船の構造や海上輸送の工夫についての理解が課題となった。	・貿易や運輸については、交通網の広がりや外国との関わりなどに着目し、資料やビデオ映像を活用しながら、工業製品と国民生活との深い関係を探り、実感を通した学びが展開できる授業を構成する。 ・自動車に関連する会社が実施している「工場見学」や「オンライン授業」などを活用し、工業生産に関わる人々の工夫や努力についての情報を収集できるような機会を設ける。□
産業と情報との関わり	平均正答率は、市の平均より3.5ポイント低い。 ○メディアの特徴について問われる設問では、96.5%の児童が正答しており、市の平均91.7%、全国平均85.7%を上回った。 ●資料に着目して、コンビニエンスストアの発注システムについて捉え、判断しているかを答える設問では、市の平均が62.8%に対し、本校は50.9%と正答率が大きく下回った。	・メディアの特徴に着目して、確かな情報を収集・選択し、様々な観点から比較して適切に判断することの大切さに気付くことができるようにする。また、学年に応じて情報モラルについても指導を継続していく。 ・既習内容を手掛かりとし、情報活用の在り方を多角的に考え、情報化社会のよさや課題について自分の考えをまとめることができるような授業を展開する。
日本の政治	平均正答率は、市の平均より3.7ポイント高い。 ○基本的人権について問われる設問では、87.7%の児童が正答しており、市の平均84.8%、全国平均80.6%を共に上回った。 ●日本国憲法に関する設問では、市の平均76.6%、全国平均83.5%に対し、本校の正答率は75.4%と下回った。	・普段の生活の中で、私たちの生活が日本国憲法の基本的な考え方に基づいていることや、立法・行政・司法の三権がそれぞれの役割を果たしていることを指導し、政治の仕組みについて理解できるようにする。 ・各学年の実態に応じて、新聞等を活用する場を設け、身近な話題から政治への関心を高められるようにする。
日本の歴史	平均正答率は、市の平均より3.1ポイント高い。 ○室町時代の文化について問われる設問では、正答率が77.2%であり、市の平均58.1%を大きく上回った。 ●日本の文化に遣唐使が与えた影響を考え、表現する設問では、市の平均35.3%、全国平均57.1%に対し、本校の正答率は28.1%であった。	・日本の歴史に興味をもてるような資料や教材を意図的に活用することで、学習意欲の向上を図る。 ・情報を適切に読み取り、調べたことをまとめる活動を通して、知識の定着を図る。 ・問いに応じた記述式の回答に課題が見られるため、授業の振り返りの場面では、学習した「キーワード」を基に自分で情報を整理する機会を設定する。

宇都宮市立岡本北小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	68.4	71.8	76.2
	図形	68.2	67.7	67.8
	変化と関係	58.5	63.4	62.7
	データの活用	67.3	66.7	61.5
観点別	知識・技能	67.7	68.6	70.7
	思考・判断・表現	66.0	68.5	66.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

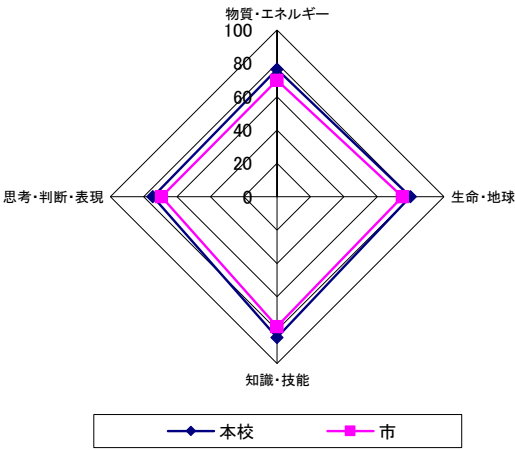
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市の平均より低い。 ○分数の乗法と除法の問題の正答率は、91.2%で、市の平均を上回った。 ●分数の除法の文章問題にあった図や式を選ぶ問題の正答率が47.4%と低く、市の平均を16.2ポイント下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・基本的な計算力の定着に向け、朝の学習や宿題等で繰り返しの練習を継続し、正しく計算する力をより身に付けられるよう、指導をしていく。 ・問題文を理解し、図で表す活動を取り入れ、図を用いて考えたり説明したりする力を身に付けられるよう、内容を理解できるようにする。
図形	平均正答率は、市の平均よりやや高い。 ○正多角形の角の大きさを求める問題の正答率は、77.2%で、市の平均を上回った。 ●半円と四分の一の円を組み合わせることができる図形の面積の求め方を説明する問題の正答率は26.3%と低く、市の平均を8.4ポイント下回った。	・図形の面積や角の大きさなど、図形を構成する要素について調べ、図形を描く活動を取り入れ、内容を理解できるようにする。 ・円や四角形など、様々な形を組み合わせることができる面積については、問題を読むだけでなく、形を切ったり、実際に動かしたりする活動を取り入れ、多様な考えの過程を扱い、定着を促す。
変化と関係	平均正答率は、市の平均より低い。 ○図から面積と数の割合を求める問題の正答率は、80.7%で、市の平均を少し上回った。 ●割合を求める問題の正答率が40.4%と低く、市の平均を10.1ポイント下回った。	・問題文をよく読み、表や図で表して整理し、内容を理解して正しく計算することができるよう、指導していく。もとにする量や割合、比べる量が正しく見つけられるように、何度も繰り返しの指導をしていく。
データの活用	平均正答率は、市の平均よりやや高い。 ○折れ線グラフを正しく読み取って求める問題の正答率は、86%で、市の平均を上回った。 ●帯グラフを読み取って説明する問題の正答率が28.1%と低く、市の平均を6.6ポイント下回った。	・具体的に記述する問題の正答率が低かったため、自分の考えを自分の言葉で説明する機会を多く設け、表現できるようにする。 ・児童の身近なことや関係あることを課題にすることで、興味をもって課題に取り組めるようにする。

宇都宮市立岡本北小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	76.4	69.9	67.8
	生命・地球	79.9	75.1	73.7
観点別	知識・技能	84.4	77.8	78.4
	思考・判断・表現	74.5	69.4	66.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	平均正答率は市の平均より高い。 ○溶け残った食塩をすべて溶かす設問で正答率は71.9%で、市の平均48.8%を大きく上回っている。 ○炭酸水から出てくる気体を答える設問の正答率は91.2%で、市の平均79.3%を大きく上回っている。 ●電磁石の性質を利用した道具を改良する方法を考える設問の正答率は64.9%で、市の平均73.5%を下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・実験を行った際の結果をまとめる活動では、まとめ方や図や表の読み取り方への理解を深められるように、授業の展開を工夫する。 ・既習事項を知識として理解することができている。今後は、より身の回りの自然や日常生活に生かしていけるように単元展開を工夫していく。
生命・地球	平均正答率は市の平均より高い。 ○目的に合った対照実験を計画する設問で正答率は89.5%で、市の平均75.2%を大きく上回っている。 ●実験結果から、部屋の換気の頻度を分析する設問で正答率は45.6%で、市の平均51.6%を下回っている。 ●生物と環境の単元は市と同程度で、他の単元と比べて苦手意識がある。	・食物連鎖の関係について図示するなどし、視覚的にも分かるようにして理解を促す。 ・自分の考えを書く設問の誤答の割合が高くなっている。記述して回答する機会を多く設けたり、書き出しの言葉や定型文を示したりしながら、問いに応じた回答に慣れさせるようにする。

宇都宮市立岡本北小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
「宇都宮モデル」を踏まえた基本的な学習態度の徹底及び創意工夫した家庭学習の習慣化	「学習の約束」を活用して基本的な学習態度の定着を図るとともに、「めあて」「まとめ」「ふりかえり」の掲示物を授業で活用し、宇都宮モデルを意識した授業づくりを進めている。 「家庭学習のすすめ・手引き」を各家庭に配付し、学年に応じた学習時間の確保と家庭学習の充実を図れるようにしている。	前回までの学力調査と比較し、平均正答率が上昇した教科が増え、基本的な学習内容の定着が見られるようになった。 1日当たりの家庭学習時間については、平日、休日のどちらも市の平均を上回る学年が増えており、学年相応の学習時間の確保ができていく様子が見えてくる。引き続き、家庭学習の与え方、学習意欲を向上させる取組の在り方を工夫し、児童の頑張りを称賛していきたい。
言語活動の一層の充実により、対話的な活動へと発展させる協働的な態度の育成	児童が主体的に取り組める課題を設定し、単元や本時のねらいの達成に向けて、グループや学級全体での協働的な話し合いを取り入れた授業づくりを進めている。 自分の思いや考えを安心して表出できるような学級集団を醸成するとともに、振り返りの時間を確保し、学習を自己調整し、学びを次の学習に繋げ、生かすことのできる児童の育成に努めている。	「グループでの話し合いに進んで参加している」や「ものごとをいろいろな視点や立場から考えている」、「ものごとを比べながら聞いている」について、学年間のばらつきが大きく、市の平均を上回っているものもあれば、下回っているものもある。児童の実態に即した効果的な言語活動の工夫、安心感のある学級集団の醸成が、引き続き必要であると考えられる。 「新しく習ったことを繰り返し練習している」や「学習した内容について、次の学習につなげることができる」への肯定的回答も、学年間のばらつきが大きい。各学年の児童の実態に応じた児童の学びへの支援等の工夫を図る必要がある。
1人1台端末を用いてICTを活用した授業の展開や地域の教育資源や教育力を有効活用した学習の定着	ICT支援員と協力し、タブレット端末の機能を生かした授業を構成したり、行事等での活用を進めたりしている。また、家庭や児童との連絡ツールとしての利用も進めている。 AIDリルの活用方法を検討・実践し、情報交換と改善を図りながら、児童の学びの充実に生かせるようにしている。	「インターネットやパソコンを利用して学習に関する情報を得ている」や「調べたことをパソコンを使ってまとめることができる」等、ICTの活用に関する設問への肯定的回答は、学年が上がる程に上昇傾向が見られるものの、市の平均を下回っているものが多い。家庭学習や連絡ツールとしてだけでなく、授業における1人1台端末の活用をさらに推進する必要がある。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方針

- ・児童一人一人の到達度や理解度をもとに、授業形態や個別支援の工夫を行い基本的な学習内容の定着をさらに進めるとともに、課題設定や授業の展開を工夫することで、活用力の向上を図れるようにする。
- ・学習したことやまとめ、振り返る場を適宜設け、内容の理解を深められるようにするとともに、学びを次の学習に繋げ、生かすことができるようにする。また、話し合い活動を全教科、領域で日常的に行い、友達から学ぶよさを実感できるようにする。
- ・家庭学習を①(個に応じた)必須の課題、②自主学習の二本立てとする。①で基本的な学力の定着と家庭学習の習慣化を図るとともに、②で学習の計画を立てたり個々に目標をもたせたりすることで、各学年の発達段階で求められる知識や技能を生かす学びの調整力と、一人一人の学習意欲の向上を図れるようにする。
- ・一人1台端末の授業での使用を日常化し、各教科や単元のねらいの達成、及び学力向上が図れるようにする。